

キャッシュフローを理解することは『お金の残し方』を学ぶこと

今期儲けた利益は何処へ消えたか？

利益は会計方針の違いで変わるが、キャッシュフローは企業の真の実力を常に表す

自 平成24年04月01日 至 平成24年12月31日

(単位:百万円)

営業活動によるキャッシュフロー

当期純利益 9.1

減価償却費	1.7
賞与引当金繰入	0.0
年払引当金等繰入	0.0
固定資産売却・除却損益等	0.0
その他(貸倒損失等)	0.0

純キャッシュへの調整額合計 1.7

受取手形・売掛金の増減	6.9	(増=▲, 減=+)
前受金等の増減	0.0	(増=+, 減=▲)
支払手形・買掛金の増減	▲0.8	(増=+, 減=▲)
前渡金等の増減	▲0.0	(増=+, 減=+)
棚卸資産の増減	▲0.2	(増=+, 減=+)
裏書手形の増減	0.0	(増=+, 減=▲)

販売仕入活動による増減額合計 5.8

未払金・未払費用の増減	▲4.8	(増=+, 減=▲)
未払法人税等の増減	▲0.1	(増=+, 減=▲)
未払消費税の増減	1.1	(増=+, 減=▲)
仮受消費税・仮払消費税	0.0	(仮受の方が多し=+)
その他資産の増減	▲2.0	(増=+, 減=+)
その他負債の増減	0.8	(増=+, 減=▲)

その他資産負債の増減額合計 ▲4.9

営業活動により潤達した純キャッシュ 11.7 ①

「利益」を「お金」に近づける努力をする

投資活動によるキャッシュフロー

売却可能有価証券の購入及び売却	0.0	(購入=▲, 売却=+)
有形固定資産の購入及び売却等	▲1.4	(購入=▲, 売却=+)
保険積立金の購入及び解約等	0.0	(購入=▲, 解約=+)
その他の増減	0.0	(増=▲, 減=+)

投資活動に使用した純キャッシュ ▲1.3 ②

フリーキャッシュフロー(純現金収支) ①+② 10.4 ③

フリーキャッシュフローは「現金の出入りで見えた純増額」
赤字なら有利子負債を増やさなければならぬ
『勘定合って赤字らず』になっていませんか？

財務活動によるキャッシュフロー

割引手形の増減	0.0	(増=+, 減=▲)
短期借入金の増減	0.0	(増=+, 減=▲)
長期借入金の増加	0.0	(借入増加=+)
長期借入金の返済	▲2.3	(借入返済=▲)
役員借入金等の増減	0.0	(増=+, 減=▲)
配当金他利益処分・資本等の増減	0.0	(増=+, 減=▲)
その他固定負債の増減	0.0	(増=+, 減=▲)
貸付金の増減	0.1	(増=▲, 減=+)
その他の増減	0.0	(増=▲, 減=+)

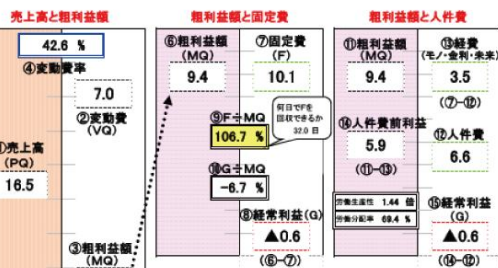
財務活動に使用した純キャッシュ ▲2.2 ④

今期の現預金の増減額 ③+④ 8.2

ダム式経営とは、「お金のことを心配して走り回っていたのでは良い仕事ができないから
お金をしっかり貯めたい」ということ

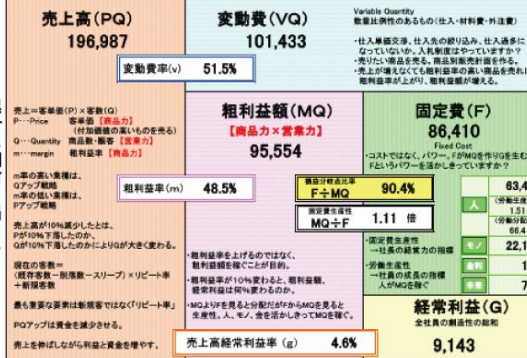
未来会計図表

どこに手を打てば利益ができるか？

利益とは「社員と家族を守るためのコスト」であり、「会社存続のための事業継続費」である。
会社存続のために絶対に必要なものは、売上でなく、粗利益でなく、利益です。
この利益は、会社が稼げる利益ではなく、会社が稼がなければならない利益です。

P (価格)	Q (数量)	V (変動費)	F (固定費)
商品力	営業力	交渉・技術力	パワー
感度比率 4.8	9.8	9.0	10.8
感度順位 1	3	2	4
やさしい順 4	3	2	1

自 平成24年04月01日 至 平成24年12月31日



分析項目	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	税引前純利益	当期純利益
金額	196,987	95,554	8,850	9,143	9,143	9,143
売上高比率	100.0%	48.5%	4.5%	4.6%	4.6%	4.6%
総資本比率	305.0%	150.0%	17.0%	18.0%	18.0%	18.0%

財務諸表構成図

財務格付けシミュレーション シート(定量評価)

株式会社 鈴木会計

	前期			当期		
	結果	配点	点数	結果	配点	点数
1. 安全性項目						
自己資本比率	60.6%	(10)	10	54.1%	(10)	9
ギアリング比率	103%	(10)	10	6.8%	(10)	10
固定長期適合率	54.3%	(7)	5	48.2%	(7)	7
流動比率	181.1%	(7)	7	164.7%	(7)	7
2. 収益性項目						
売上高経常利益率	3.7%	(5)	4	5.4%	(5)	5
総資産経常利益率	7.0%	(5)	5	8.1%	(5)	5
収益フロー	0	(5)	0	5	(5)	5
3. 成長性項目						
経常利益増加率	-21.2%	(5)	0	45.9%	(5)	5
自己資本額	94	(15)	2	106	(15)	3
売上高	296.7	(5)	1	297.0	(5)	1
4. 返済能力						
債務償還年数	0.7	(20)	20	0.4	(20)	20
イールド・アベリッジ	44.6	(15)	15	87.0	(15)	15
キャッシュフロー・額	13.2	(20)	2	22.4	(20)	2
定量要因計	(129)	81		(129)	94	
100点満点に換算すると	(100)	63		(100)	73	

格付け	スコア	ポイント
1	90以上	リスクなし
2	80以上	ほとんどリスクなし
3	65以上	リスク低
4	50以上	リスクあるが良好
5	40以上	リスクあるが平均的
6	25以上	リスクあるがやや危険
7	25未満	リスク大(破産危険)
8	25未満	破産危険(注意)

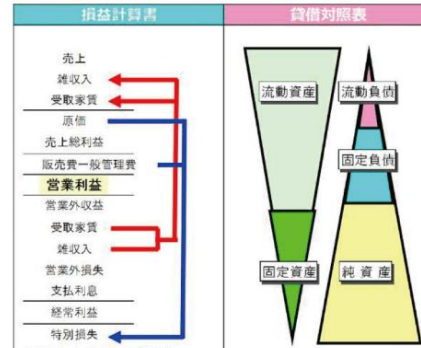
財務格付けは、



【都市銀行の融資のポイント】

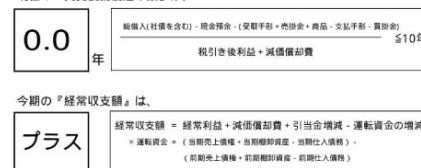
- ① 二期連続で税引後利益となっていないか？
- ② 実態総資産が債務超過でないか？
- ③ 返済上債務超過でないか？
- ④ 返済条件の変更を要していないか？
- ⑤ 役員借入金と資本金として扱ったか？
- ⑥ 実質債務償還年数が10年以下か？
- ⑦ 経常収支がプラスになっているか？

格付けアップのポイント

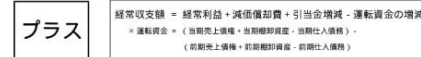


左側(資金の運用)は上半身が筋肉、右側(資金の調達)はお尻の大きな女性型のイメージ。
男性のイメージ、右側(資金の調達)はお尻の大きな女性型のイメージで作り上げる。

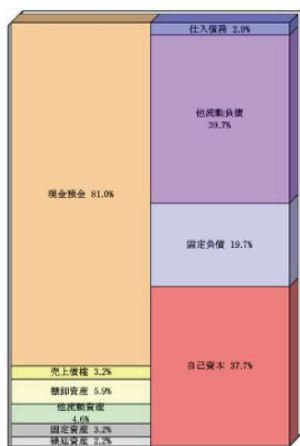
現在の『実質債務償還年数』は、



今期の『経常収支』は、



貸借対照表構成図



借方科目	金額	貸方科目	金額	比率分析項目	比率
現金預金	40,285	仕入債務	1,448	現金比率	81.0%
売上債権	1,600	繰上債権	19,738	繰上債権比率	22.2%
有価証券	(借入金)	繰上債権	19,738	繰上債権比率	22.2%
繰上債権	2,920	繰上債権	9,792	繰上債権比率	8.6%
繰上債権	2,920	繰上債権	9,792	繰上債権比率	8.6%
繰上債権	1,575	繰上債権	30,978	繰上債権比率	37.7%
繰上債権	1,080	繰上債権	18,781	繰上債権比率	16.4%
繰上債権	49,759	繰上債権	49,759	繰上債権比率	19.7%

資金別貸借対照表

格付けの健康診断書

格付けが悪いのか、区分するかわかりやすい、資金不足の原因はどこにあるのか？どこに改善の余地があるのか？

平成24年12月31日		第6期		(単位:百万円)	
現預金		資金運用		資金調達	
増減					
14.6					
8.7					
▲1.3					
▲1.6					
11.7					
▲2.2					
22.5					
40.3					
17.8					
12.4					
0.7					
12.4					